

# 論点整理と今後の進め方（案）

平成29年1月25日

## 0. 問題意識

- 自動ブレーキなどの高齢ドライバーの安全運転を支援する先進安全技術の優先項目を特定し、「安全運転サポート車」として分かりやすく普及啓発をすることが必要ではないか。

## 1. 「安全運転サポート車」の検討について

- 平成27年中に発生した75歳以上高齢運転者による死亡事故について人的要因を見てみると、操作不適が最も多く、次いで安全不確認、内在的前方不注意（漫然運転等）の順に多く発生している。

### ⇒ <安全運転サポート車>のコンセプトの特定<

今後コンセプトについては、更にデータを精査すると共に、自動車メーカーからのヒアリングを行い、以下の観点から検討してはどうか。

- ① 高齢運転者事故抑止の効果
- ② 実際の技術の利用可能性（技術が確立されているか、市販車に搭載可能であるか）

その際、既存車への対策についても検討が必要。

## 2. 「安全運転サポート車」普及の課題

### (1) 先進安全技術を正しく知る・体験する機会が少ない

- 自動車ユーザーに対するJAFのアンケート結果によれば、先進技術を装備した自動車の購入意向については、70歳以上のユーザーの過半数が「試乗して体験してから考えたい」と回答。
- 他方、70歳以上運転者は、主に「いざという時に必ず安全とは言えないと思う」ということを理由に、全体平均より「購入したいと思わない」、「わからない」という回答割合が高い。

問. 先進技術を装備した自動車を購入したいと思いますか？

	購入したいと思う	試乗して機能を体験してから考えたい	購入したいと思わない	わからない
69歳以下	31.8%	53.2%	9.2%	5.7%
70歳以上	24.2%	51.7%	14.8%	9.3%

(出典：日本自動車連盟「ASV（先進安全自動車）の認知度等に関するアンケート調査（2016年2月）」をもとに経済産業省が加工)

### ⇒ <ユーザーに対する普及啓発>

上記のような高齢者ユーザーの傾向を踏まえ、有効な普及啓発を考えることが必要ではないか。

## 2. 「安全運転サポート車」普及の課題

### (2) コストが高い

- 70歳以上は、先進安全技術に対して10万円以上を許容出来る層は多い一方、全く支払いたくない層も26%と69歳以下に対して多くなっている。

問. 先進安全技術について、今後車を購入する際にいくら位までであれば支払ってもよいと思いますか？

	お金がかかるなら 装着しない	5万円まで	10万円まで	それ以上
69歳以下	21.3%	11.0%	23.8%	43.9%
70歳以上	26.1%	6.5%	18.6%	48.8%

(出典：日本自動車工業会「2015年度 乗用車市場動向調査」をもとに経済産業省が加工)

### ⇒<購入インセンティブ>

任意自動車保険については、自動ブレーキ装着車のリスク軽減効果を反映したA S V (先進自動車) 割引が導入されることとなっている。このほかに、購入インセンティブのため、自動ブレーキ搭載車両の普及の観点から取り組むべきことはないか。

## 2. 「安全運転サポート車」普及の課題

### (3) 先進安全技術の搭載率、技術開発が途上

- 自動車生産台数（2015年）のうち、自動ブレーキ搭載率は45.4%、ペダル踏み間違い時加速抑制装置搭載率は35.9%と近年大きく伸びているものの、過半に満たない状況。（国土交通省調べ）

### ⇒ <搭載率を高める方策、及び技術開発加速するための有効な施策>

自動車メーカーからのヒアリング等も踏まえ、自動ブレーキなどの先進安全技術の搭載率を高め、技術開発を加速するための方策を検討すべきではないか。その際、安全評価制度（自動車アセスメント）のあり方や基準策定の方向性、その他の支援策に関する検討が必要ではないか。

## 3. 今後の進め方

### 第2回（平成29年2月中旬～下旬）

… <前述 1, 2 (1)・(2) >

1. 安全運転サポート車のコンセプト案（要件・位置付け、自動車メーカー意見等）
2. 当面の普及啓発策の事例（アイデアの集約）
3. 任意自動車保険のA S V割引の導入（スケジュール状況、着実な実施に向けた見直し等）

### 第3回（平成29年3月中旬～下旬）

… <前述 2 (3) >

1. 安全評価制度（自動車アセスメント）のあり方（アイデアの集約）
2. 基準策定の方向性
3. その他の支援策（アイデアの集約）
4. 中間取り纏め